

2026/5/15

株式会社日水コン

2026年12月期 第1四半期 決算説明資料

業績サマリー

- 受注高**
 - ・ 2025年第1四半期に10年契約の大型案件（3,120百万円）を計上しているため、前年に対し減少しているが、受注残高を確保できているため問題はない
 - ・ 受注高が増える第2、第3四半期の受注に注力し、次年度以降に売上計上する受注残高を確保する見込み
- 売上高**
 - ・ 設計チェック体制の強化に伴う工数増加により業務進捗率は低下したものの、生産性の改善により吸収し、増収を達成
 - ・ 通期計画の達成に向けて順調に進捗
- 営業利益**
 - ・ 過去3年間の平均値で算定される業務補償引当金繰入額等の増加により減益となったが、実力値では前期と同程度を維持（今期に設計瑕疵の発生はない）

受注高

2,813百万円

前年同期:6,317百万円
前期比:▲55.5%
計画進捗率:12.2%

売上高

7,409百万円

前年同期:7,126百万円
前期比:+4.0%
計画進捗率:29.8%

営業利益

1,234百万円

前年同期:1,352百万円
前期比:▲8.7%
計画進捗率:51.2%

親会社株主に帰属
する四半期純利益

843百万円

前年同期:921百万円
前期比:▲8.5%
計画進捗率:50.8%



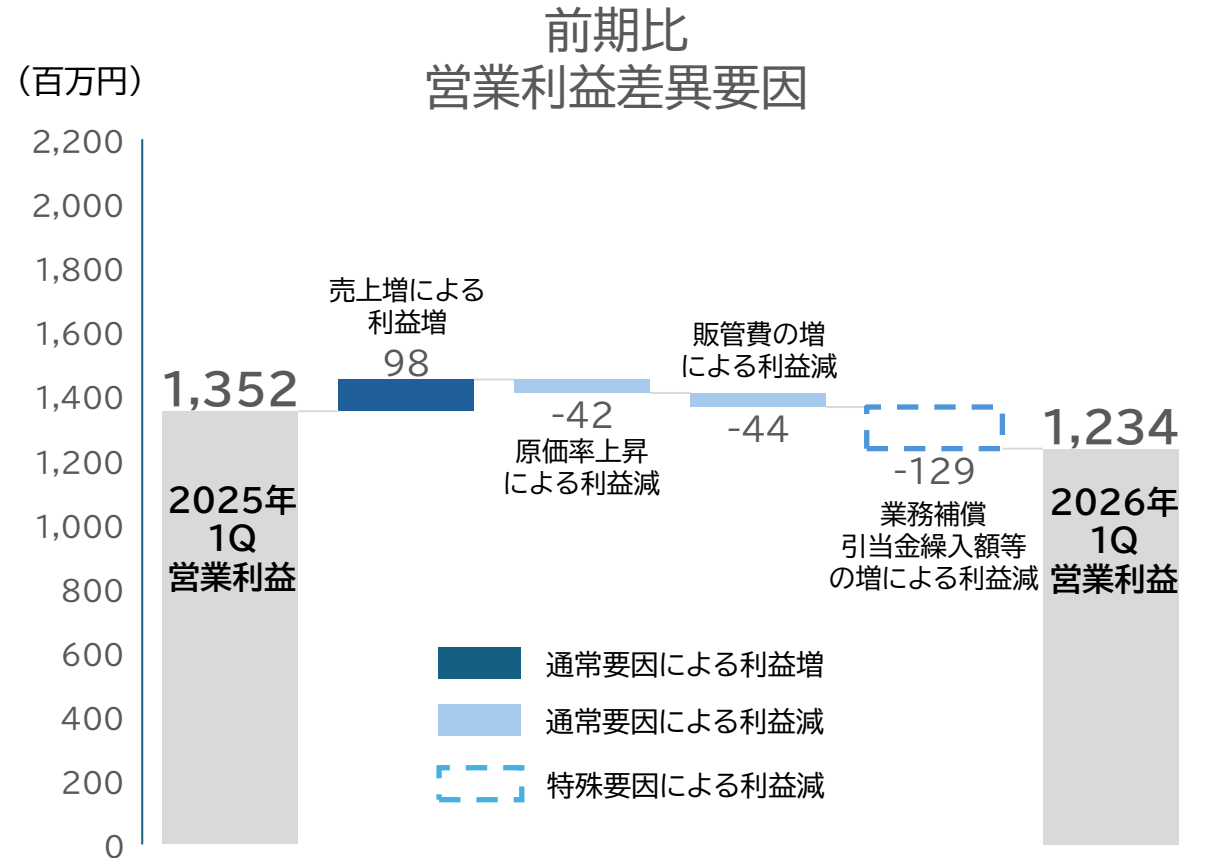
連結損益計算書

- 売上高
 - ・ 7,409百万円（前期差 + 282百万円、 + 4.0%）となり増収
- 営業利益
 - ・ 業務補償引当金繰入額等の増加の影響により、売上総利益率が低下（34.8%→32.5%）
 - ・ 販管費率は前期と同水準で推移（15.9%）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
 - ・ 持分法適用関連会社の利益及び債権回収による取立益を経常利益に計上したものの、前期差▲78百万円

	FY2025 1Q		FY2026 1Q		前年同期比	
	金額 (百万円)	売上比	金額 (百万円)	売上比	増減額 (百万円)	増減率
売上高	7,126	100.0%	7,409	100.0%	+282	+4.0%
売上原価	4,643	65.2%	5,000	67.5%	+356	+7.7%
売上総利益	2,482	34.8%	2,408	32.5%	▲73	▲3.0%
販売費及び一般管理費	1,130	15.9%	1,174	15.9%	+44	+3.9%
営業利益	1,352	19.0%	1,234	16.7%	▲118	▲8.7%
経常利益	1,411	19.8%	1,333	18.0%	▲77	▲5.5%
四半期純利益	920	12.9%	870	11.7%	▲50	▲5.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	921	12.9%	843	11.4%	▲78	▲8.5%

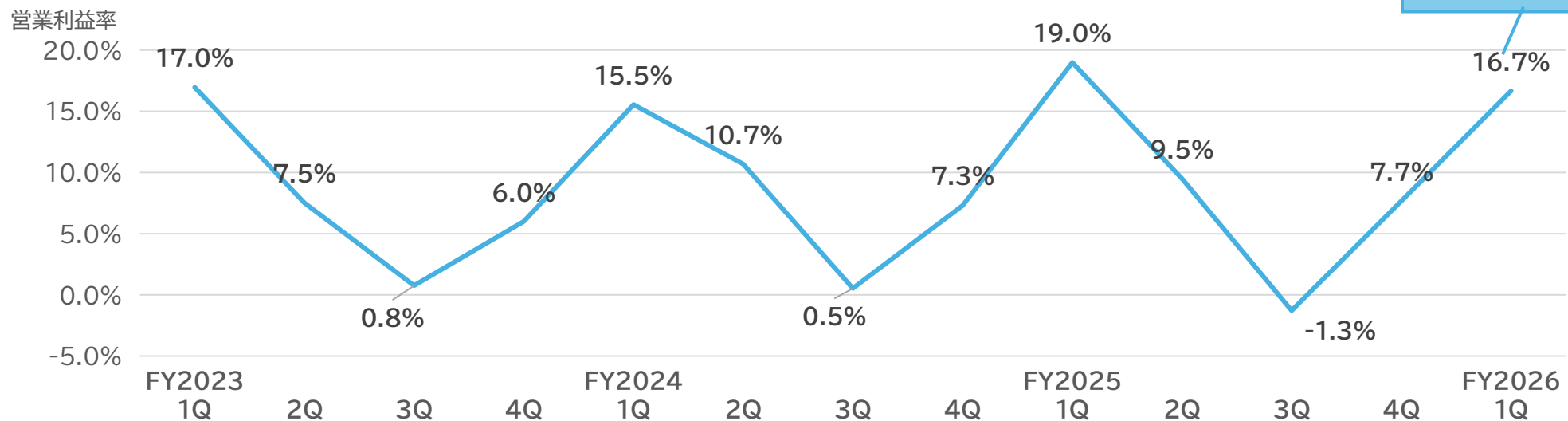
第1四半期の営業利益差異の要因

- 第1四半期の営業利益は1,234百万円
(前期比▲8.7%)
- 業務補償引当金繰入額等の増加により不利差異が発生 (特殊要因)
 - 業務補償引当金繰入額は過去3年間の平均値で算定しているため、2025年に発生した設計瑕疵案件の影響により増加
(今期に設計瑕疵の発生はなし)
- 業務補償引当金繰入額等の増加額129百万円を除いた実力値の営業利益は1,364百万円で前期と同程度



四半期ごとの営業利益率推移

- 官公庁を主要顧客としているため、納期が集中する年度末の第1四半期に利益が偏重、売上計上が少ない第3四半期は固定比率が高まり利益率が低下する季節変動
- 2026年12月期第1四半期は、前期比で売上総利益率が低下したものの、安定的に利益を確保
- 業務補償引当金繰入額等の増加分を除いた、実力値の営業利益率は18.4%と高水準を維持



分野別 受注高①

■ 2026年第1四半期の連結受注高は2,813百万円（前期比▲55.5%）

- 2025年第1四半期は大型案件（R i f レックス）の受注額を計上しており、これを除くと3,197百万円
- 2026年第1四半期は2,813百万円で、前期比▲12.0%（R i f レックスを除く受注高）

■ 今後の見通し

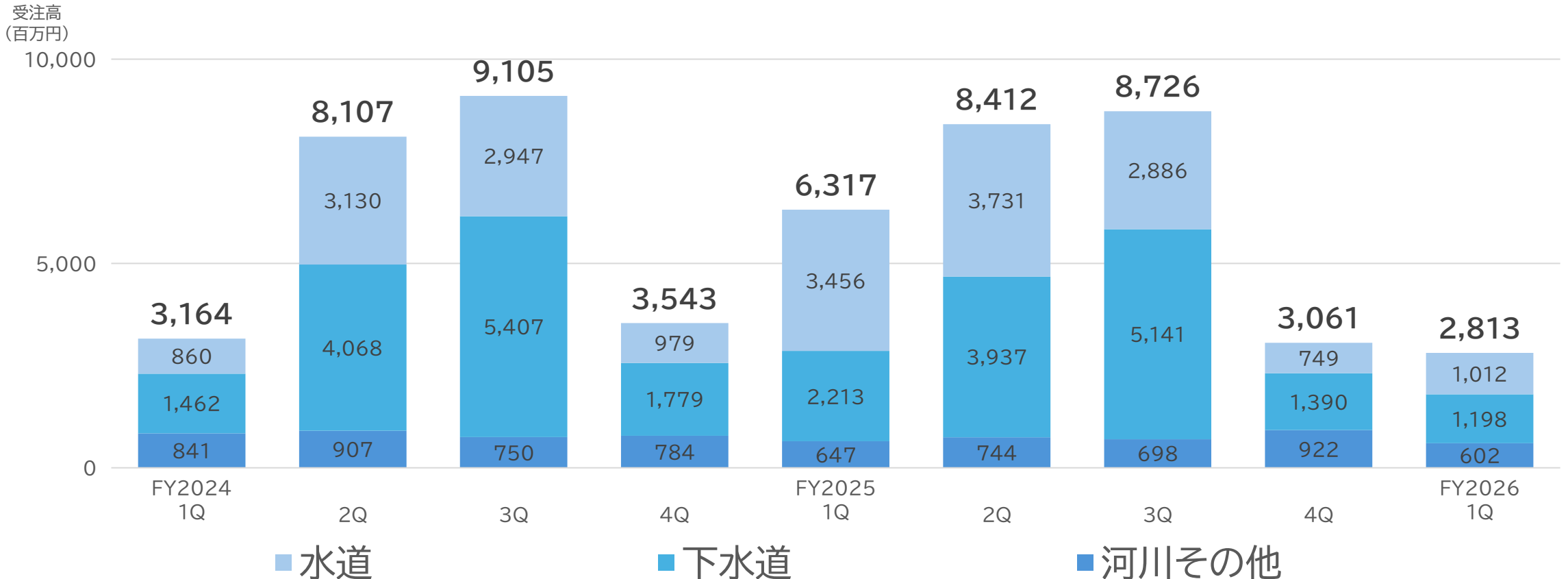
- 第1四半期の受注高は期ズレにより進捗に遅れが生じたものの、通期では想定通りの受注を確保できる見通し
- 海外において契約待ちの案件が複数あり、第2四半期以降に受注計上予定

分野	FY2025 1Q			FY2026 1Q	前期比 (対連結受注高)		前期比 (対R i f レックスを 除く受注高)	
	連結受注高 (百万円)	R i f レックス 受注高 (百万円)	R i f レックス を除く受注高 (百万円)	連結受注高 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率	増減額 (百万円)	増減率
水道	3,456	2,112	1,344	1,012	▲2,443	▲70.7%	▲331	▲24.7%
下水道	2,213	1,008	1,205	1,198	▲1,014	▲45.8%	▲6	▲0.6%
河川その他	647	-	647	602	▲45	▲7.0%	▲45	▲7.0%
合計	6,317	3,120	3,197	2,813	▲3,503	▲55.5%	▲383	▲12.0%

分野別 受注高②

■ 四半期ごとの受注高推移

- 第1、第4四半期は受注が少なく、第2、第3四半期に受注高が多くなる季節変動
- 第2、第3四半期に受注の積み上げを見込んでおり、通期の受注高計画値（23,150百万円）は達成できる見通し



分野別 受注残高①

2026年第1四半期末時点 連結受注残高

- 連結受注残高は20,160百万円
(前期差▲1,660百万円、▲7.6%)
- 前期からは減少しているものの、十分な金額を確保しているため、今後の売上、利益見通しへの影響はない

分野別の状況

- 水道・下水道は十分な受注残高を確保
- 河川その他は2025年に受注が苦戦した影響により減少しているが、プロポーザル案件へのエントリーにより挽回を目指す

分野	FY2025	FY2026	前期比	
	1Q末	1Q末	増減額	増減率
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	(百万円)	
水道	9,091	9,802	+711	+7.8%
下水道	9,578	9,153	▲424	▲4.4%
河川その他	3,151	1,204	▲1,946	▲61.8%
合計	21,821	20,160	▲1,660	▲7.6%

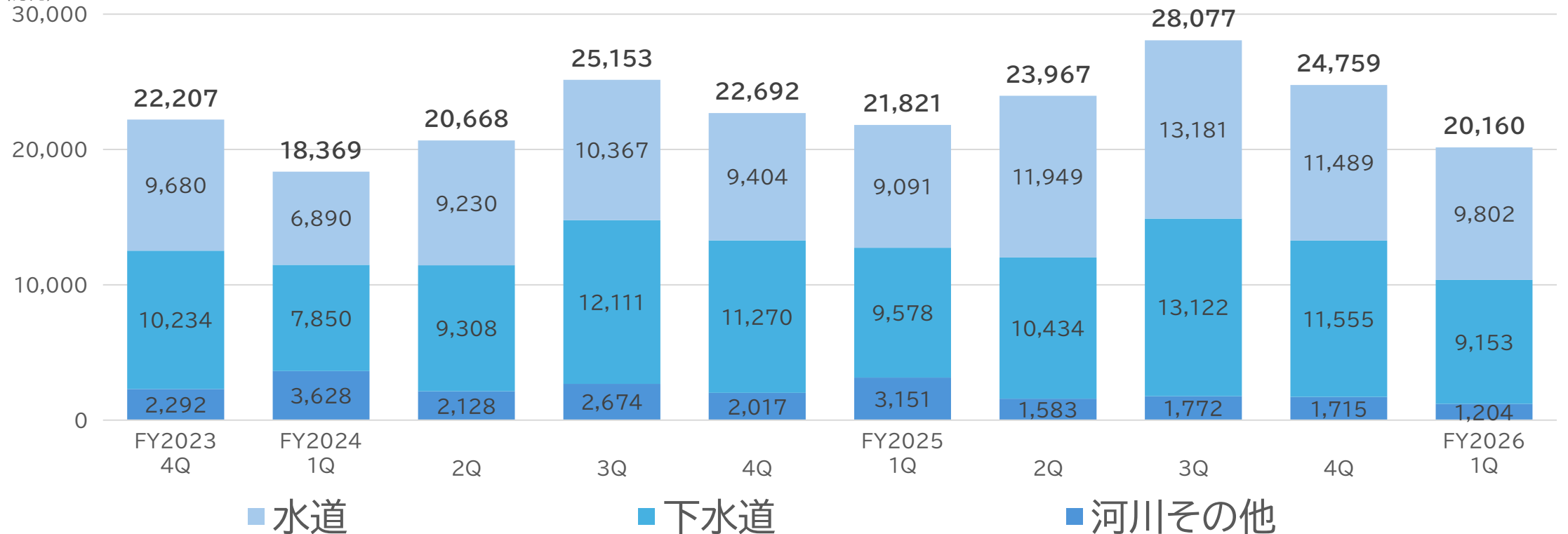
分野別 受注残高②



受注残高の四半期別推移

- 第1四半期は売上高が多く受注高が少ない季節変動であるため、受注残高が減少する傾向
- 第2、第3四半期に受注高を積み上げ、受注残高が増加する見通し

受注残高
(百万円)





分野別 売上高

- 水道
 - ・ 当社単体の業務進捗に加え、R i f レックスの売上が加算（前期比+16.8%）
- 下水道
 - ・ 業務が順調に進捗し、着実な成長を継続（前期比+4.6%）
- 河川その他
 - ・ 当社の河川部門、連結子会社の砂防エンジニアリングともに不調で減収
 - ・ プロポーザル案件へのエントリー等により挽回を目指す

分野	FY2025 1Q		FY2026 1Q		前期比	
	金額 (百万円)	売上 構成比	金額 (百万円)	売上 構成比	増減額 (百万円)	増減率
水道	2,383	33.4%	2,784	37.6%	+400	+16.8%
下水道	3,636	51.0%	3,803	51.3%	+166	+4.6%
河川その他	1,106	15.5%	821	11.1%	▲284	▲25.7%
合計	7,126	100.0%	7,409	100.0%	+282	+4.0%

事業トピック①

株式会社Liberawareとの資本業務提携契約の締結

- 「日水コングループビジョン2030」で掲げる戦略投資の一環として、約5億円を出資
- 当社が有する水インフラ分野における知見及び顧客基盤と、株式会社Liberawareが有するドローン技術及びデータ利活用技術を連携
- 下水道分野におけるドローン活用及びDXソリューションの社会実装の加速を目指す

名称	株式会社Liberaware
事業概要	<p>ドローン事業 ドローン等を用いたインフラ・プラントの調査・点検・測量サービス及びプロダクト「IBIS」をはじめとするドローン等を販売・レンタルするサービス</p> <p>デジタルツイン事業 ドローン等により取得したデータを画像処理技術等により解析し、映像、3次元データ、異常検知に資する情報等をデジタル上に構築・提供するサービス</p> <p>ソリューション開発事業 技術力やノウハウを基に、ハードウェアからソフトウェアまで幅広いソリューションを提供する受託開発事業</p>
業績	連結売上高：1,406百万円（2025年7月期）

Liberaware
CO.,LTD.



事業トピック②

「No Entry実現に向けた概略点検・詳細点検併用型ドローン×AI実証事業」が国土交通省のAB-Crossプロジェクトに採択



当社と株式会社Liberaware、管清工業株式会社、アキュイティ株式会社、千葉市で構成する共同研究体が、国土交通省のAB-Crossプロジェクトに採択

事業の概要

事業名	No Entry実現に向けた概略点検・詳細点検併用型ドローン×AI実証事業
目的	屋内点検用ドローン「IBIS2」及びAI技術を基盤とし、クラック幅の定量計測機能及び自己位置推定機能の高度化を中核に、調査困難区間への適用拡大と診断精度の向上を図ることで、下水道管路点検のNo Entry（無人化・省力化）及び標準技術化を実現する
事業概要	下水道管路内の狭小空間や高水位環境に対応可能なドローンを中核とし、管内映像の高精細化及びAI解析技術を組み合わせることで、従来は定性的把握に留まっていた劣化状況をより高精度かつ効率的に把握可能な点検技術の確立を目指す
実施体制	株式会社Liberaware、管清工業株式会社、株式会社日水コン、アキュイティ株式会社、千葉市

下水道調査のオペレーションイメージ



事業トピック③ 広域型「水の官民連携」(ウォーターPPP)を受注

■ 当社が構成企業である「南大阪広域下水道サービス共同企業体」が、2市連携による広域型ウォーターPPPに参画



合同契約締結式

■ 事業の概要

業務名	大阪狭山市公共下水道施設包括的維持管理業務（第3期）及び河内長野市下水道施設包括的管理業務
業務内容	<p>◇大阪狭山市公共下水道施設包括的維持管理業務（第3期） 大阪狭山市が所管する下水道施設全てを対象に、統括管理業務、日常的維持管理業務、計画的維持管理業務、ポンプ場及びマンホールポンプ維持管理業務、計画策定業務、実施設計業務・改築工事、その他業務を実施</p> <p>◇河内長野市下水道施設包括的管理業務 河内長野市が所管する下水道管路施設及び下水道施設全てを対象に、統括管理業務、下水道事業計画等変更業務、日常的維持管理業務（管路施設）、計画的維持管理業務（管路施設）、計画策定に必要な管路調査業務、実施設計業務（管路施設）、改築工事（管路施設）、公共汚水ます設置及び改築承諾調査業務、施設維持管理業務、日常的維持管理業務（下水道施設）、運転管理等業務、計画的維持管理業務（下水道施設）、実施設計業務・工事（下水道施設）を実施</p>
履行期間	2026年4月1日～2036年3月31日
構成企業	藤野興業株式会社（代表企業）、株式会社日水コン 大阪支所、積水化学工業株式会社、管清工業株式会社 大阪支店、クリアウォーター-OSAKA株式会社、株式会社日本インシーク、株式会社カンキョウ、石垣メンテナンス株式会社 大阪支店

2026年12月期 業績及び株主還元の見通し



業績及び株主還元の見通し

- 2026年2月に公表した業績予想値から変更なし
- 配当性向50%を目安とする株主還元の方針についても変更なし

項目	FY2025 実績 (百万円)	FY2026 業績予想値 (百万円)	前期比
売上高	24,413	24,900	+2.0%
営業利益	2,379	2,410	+1.3%
営業利益率	9.7%	9.7%	±0.0%
経常利益	2,506	2,450	▲2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,730	1,660	▲4.1%

配当予想値	
1株当たり配当金	74.0円
配当性向	52.5%

(注) 2025年12月期は営業外収益に特殊要因（保険金の入金等）を含む



Disclaimer

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報は、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含むものです。当社としてその実現や将来の業績を保証するものではなく、実際の業績はこれら将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の業績に影響を与える要因としては、一般的な業界及び市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

本資料における将来情報に関する記載は、上記のとおり本資料の作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新する義務も方針も有しておりません。また、本資料の全部又は一部は、当社の承諾なしに、いかなる方法若しくは媒体又は目的においても、複製、公表又は第三者に伝達（直接であるか間接であるかを問いません。）することはできません。

本資料は、当社に関する情報提供を目的としたものであり、国内外を問わず、いかなる有価証券、金融商品又は取引に関する募集、投資の勧誘又は売買の推奨を目的としたものでもありません。

本資料は、金融商品取引法又はその他の法令若しくは諸規則に基づく開示書類ではありません。投資のご検討に当たっては、必ず当社が作成する株式売出届出目論見書（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。目論見書のご請求、お問合せは、取扱証券会社までお願いいたします。